

——イスラエル通信——
武力による平和は一時のものだ!!

戦時下のキブツから 野口晃治

十月六日 シヤバツトの始まる昨日から、熱心なユダヤ教の信者達は断食をする日でした
が、今日、十月六日昼過ぎから、いつもと違つて空にはジェット機の爆音がひっきりなしに続いていました。午後三時頃には、ウーウーとサイレンが鳴り響いて、夕方になつても空の様子は変りませんでした。

夕方には、赤く色を塗った電球を渡され、外の電燈は全部消すよう命じられ、キツツのサインレンが鳴つたらモアドン（喫茶室）の前の防空壕へ集まるようにと指示を受けました。食堂にはビニールのカーテンが下げられ、中の明りを外にもらさないようにしてあり、メイア首相のメッセージがあつたとかで、多くのメンバーが軍隊に駆り出されて、何だか落ちつかない感じで赤い薄暗い電燈の下で時を過ごしました。

空には半分欠けた月が、そして数多くの星が地上のこの出来事を、どんな気持で見ていいのだろうかと、まだ心のどよめきを感じながら思つたことでした。午後十時頃には、それぞれ防空壕で待機していた人々が、暗くしてある自分の部屋へ帰り、平常の生活に戻りました。

じがしてびっくりしてしまいました。なにせ、このような体験は生れて初めての事でしたから。聞くところによると、シリア軍のジエット機が、この近くのミグダル・ハエメツク辺に爆弾を落して、それをイスラエル空軍が迎え撃ったとの事でした。ふだんは、アフラムの町の灯がキラキラと輝いているのですが、今日ばかりは真暗です。

ところが七時半頃、突然「トナン」「トナン」という爆音と共に、外に光がもれないうようにしてあつたカーテンが、爆風のようなもので揺れ動き、キブツのサイレンがけたましく鳴り響き、何ヶ所かにある防空壕へ続々と人々が殺到しました。中にはベッドのマットレスをかぶつて来る人もあるて、僕はその爆発音を聞いた時、足の力が抜けて行くような感

十月七日 昼過ぎから二度サイレンが鳴り響き、防空壕へ駆け込みました。夕方からは全くジエット機の爆音も聞こえず、今までの事が悪夢のような感じで、内心ホツとしていたものの、余りにも静か過ぎるので気味が悪くなるくらいでした。空にはいつものようになつた。えた星と七分程の月が、ひときわ鮮やかでし

を夜風にさらしてやろうと、八時半頃出かけました。歩きながら自然に頭に浮んで来る事は、戦争とか平和とかいうことでしたが、その意味あいも、この二日間の出来事ですか

り変貌して、骨だけの姿になってしまったようです。それには肉を付けることが自分に問われている問題であるような気がして、もう一度根本的にやり直さねばならぬと、決意を新たにさせられた次第です。

れいな空の下の何処かにひそんでいるのだなと考えていると、突然、正面の山の向うの方に稻光のようなものがしたかと思つた瞬間、ドカン・ドカン、と爆発音が轟き、再び光を放ち、サインレンがけたましく鳴り出しました。僕は途中から引返してこの山には所々に昔の人達が住んでいたと思われる洞窟があるので、そこでしばらくじっとしていました。

した。今夜アラブ側が、やけくそになつて一斉に総攻撃をかけて来ると、大言しているからだというのです。僕は思う。人間なんて、この地球上で最低の生き物じゃないかと。そして、その事を自分に向かって叫び続けて生きよう。これがせめてもの、ひとを裁かないで生きられる方法かも知れない。旧約聖書の神の力が、ますます心に迫つて来て、どうしようもありませんでした。

十月十日 緊張して防空壕の中で午前一時を待ちましたが、何事も起らず、三時半頃遠くの方から、ドカン、ドカンという音がしただけでした。今日聞くところによると、この近くの、ラマト・ダビッドというところにあるイスラエル空軍の飛行場のそばのキツツに、シリア軍のロケット弾が打ち込まれて、一人が死んだとの事でした。この近くの他のキツツの食堂もやられたそうです。おかげで今日は夕食が早めに始まり、六時半には全員が食事を済ませ、防空壕で夜を過ごすはめになりました。

今は不思議なほど落ち着いているものの、昨夜は、今来るか、今来るかの不安と、そして今晚の穴ぐらし、昨日は人間は最低の生き

いました。いま頃は、子供達や老人や女達が

急いで駆け込んでいることだろうと想像しつつ、何も知らない子供達は、いったいどんな気持なのだろうかと思いつめぐらしたものでし

は、戦争が殺し合う事を宿命としているとしても、原爆、水爆だけは使つてほしくない、否、絶対使ひはしないと人間の心の奥の奥を信じることでした。それが僕の限界で、もしこうしてみろ、その後僕が生きのびていたとしたら、ただでは済まないぞ！という心の叫びをどうしてもおさえる事が出来ませんでした。空には、ひときりなしにジェット機の爆音が轟き、昼過ぎまでそれが続き、昼頃には、青い空に真白い雲が現われ、ジェット機が二機づつ、それを縫うように飛んで行つてしまします。小雨がめずらしくボロボロと降り、僕はその雨が地上の出来事を嘆いていた涙のようと思われてなりませんでした。

昼、食堂へ行つても、多くの男達は軍隊へ出かけて行つてしまい、残された老人や女達が沈痛な面持ちでラジオから流れるニュースを、全身を耳にして聞き入つていました。食事が済んでも、そのまま座り込んでいて、彼等の疲れた眼が印象的でした。あたかも、

SOSが打たれた難波船の乗組員の家族達のようでした。

昼過ぎからは、低くバリバリという爆音を響かせながら飛んでいたジェット機の数も少くなり、おまけに、はるか上の方を飛ぶようになりました。先生をしているアブノンと、この間アメリカから来たばかりのジエリーが、軍隊から一時戻つて来て吉報を持って来たらしく、女達は歓声をあげていました。しかし、僕の心は正直いうと、複雑でした。一方が歓喜すれば他方は逆に悲しんでいると思うと、やりきれない思いがして、早くこの戦争が終結することを祈るばかりでした。

夕食の最中に、またサインレンが鳴り出し、食事の途中で食堂の地下へ避難しました。そばにいたアメリカ人のベン・ジャミンという男が、「今夜一時に防空壕へ集まるんだよ」と教えてくれました。僕はしばらくして泣けて来ました。恐ろしいからというよりも、戦争を引き起こす人間の愚かさに。もちろん、その愚かさは、僕もその同じ立場になつたなら、このような愚かな行為をするであろう可能性がたまらなく悲しくなつてきました。まだその時は、なぜ集まるのかも知りませんでしたが、少し経つてから、その理由が知らされま

とらすに至らしめました。昼間、ある青年に、この戦争はいつ終るだろかと、訪ねてみました。すると、彼は「もう二、三日だろ」として僕を励ますかのように、「イスラエル軍は強いんだよ」と、付け加えた時、「いや強くない!!」と叫んでしまい、彼は僕のすごみにひるんでしました。しかし、僕の言う意味は、通じなかつたようです。このように言ひたかったです。——こちらが強い、強いと誇れば誇る程、相手の国の人達は逆に憎しみが増していくのだと。そして、こつひとつ叩かれれば叩かれる程、その人達は叩いた相手の国に勝つ為に、預金をするのもその為に、教育するのもその為に、すべての生活がその事の為に、結束して来るだろう。武力によつて得た平和は、一時のもので必ず武力で倒されるであろうと——しかし、僕がそのよう叫んだとしても、ユダヤ人からは、「もしこれに敗れれば、俺達の国はそれで終りなのだ。」そして、あげくの果てには、「お前は日本人だから。」との返事が戻つて来ることでしょ。銃を持たねば、彼らと共に平和の道はないのか。否、断じてそうでない！愛の弾丸を勇気を持つてぶち込むことだ、その方法が可逃かんからぢやないですか。無力など

うか助けて下さい。

十月十一日 今夜は満月で大変静かで、戦争が行われてゐるなんて、うそのようです。昼間、僕の大好きな熱心なユダヤ教の信者のメナヘムじいさんに、「この戦争はいつ終るだろ?」と聞く。彼曰く、「私は知らない」と。そして天を指して「すべて神が知つてゐる」との返事が戻つて来ました。今頃彼は、

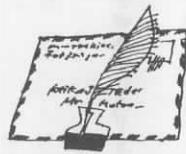
この戦争が早く終つてくれるよう祈つてゐる事でしょう。昨夕は、スコットというユダヤ教の祭りで、いつも安息日に入る夕方のように、食事の前から正面の壁にはローソクがともされていました。その夜も再びアラブ側が総攻撃を加えると大言しているところで、防空壕へ早めに入るため、食事後、早々に引き上げ、六時半には二本のローソクだけが誰もいなくなつてしまつて真暗にしてある食堂で、あかあかとともつてゐるのが印象的でした。(しかし、何事も起こりませんでした。)

十月十二日 今まで一緒に働いたりしていただけのキブツの男達が、今、銃を持って戦つているということが、本当に信じられなかつたのですが、今日は、彼らの内の二、三人が、

帰つてからも、ただ人生の中の毛色の変わつたトピックスとしてではなく、ここで得たもの見方、ものの考え方、人との共同、人の生き方は末長く頭にとどめ、これから日々の中で、まだ原石みたいなそれらに少しずつみがきを加えていくのが日本に着いてから的生活になると考へています。

グルーブ解散を前にして
滝浪豊満(十一回生)
今日(十月二十日)をもつて、私達もグルーブ解散に踏み切りました。昨晩アリエも教室に来て、私達の解散パーティーに加わってくれました。ワイン、お酒、君子さんがつくつてくれたケーキと紅茶で、しみじみこれまでの六ヶ月を話合つたわけです。

一年はネティップにてその後の半年間は色々なキブツを見てまわることが、当初の計画でしたが、結局、半年のネティップ滞在のみでキブツ生活に終止符を打つことになってしまいました。計画からすれば、ずい分意氣地なく帰りを急ぐ自分を弁護してやるい言葉が今の自分には見つかりません。しかし、自分なりに自己を思つた時、このまま帰つた方がここにとどまるより、毎日の生活に意欲が持てそうだ



イスラエル通信

という気がしてきたのです。

帰つてからも、ただ人生の中の毛色の変わつたトピックスとしてではなく、ここで得たものの見方、ものの考え方、人との共同、人の生き方は末長く頭にとどめ、これから日々の中で、まだ原石みたいなそれらに少しずつみがきを加えていくのが日本に着いてから的生活になると考へています。

グルーブメンバーの今後の予定は次の通りです。宮崎秀樹が

二十二日イスラエル発ローマへ、二道忠太郎(十回生)

戦後のひととき

の半年間は色々なキブツを見てまわることが、当初の計画でしたが、結局、半年のネティップ滞在のみでキブツ生活に終止符を打つことになってしまいました。計画からすれば、ずい分意氣地なく帰りを急ぐ自分を弁護してやるい言葉が今の自分には見つかりません。しかし、自分なりに自己を思つた時、このまま帰つた方がここにとどまるより、毎日の生活に意欲が持てそうだ

るということです。私と笠原千穂は別々に、ここ一週間位のうちにヨーロッパに立ちます。栗崎鈴木重義は二十二日からキブツ、マーバロットへ移ります。小室容子も明日一緒に打診に行き話がまとまればマーバロットに移るということです。私と笠原千穂

ようやく休戦しました。何度も休戦、いや続行の繰り返しの末です。二十四日(今日)よう

やくキブツ中に明かりがともり、

なごやかさが帰つて來ました。

子供達が夕食後、ハダルオ・食

堂の前で遊び廻るのを見るの

も、本当に何日ぶりだろうと思

うには星は見えず、残念!

というところです。この戦争、

ラジオのスイッチをひねると、イスラエルの放送は、ゴランでの戦闘の生々しいエキサイヒトした状況を伝えています。また、一方、イギリスのBBC放送は、「ダマスカス等のシリアの主要地点の爆撃が始まつた。ソ連がミグ戦闘機をシリアへ、アメリカがファンタム・ジェット機をイスラエルへ、それぞれ數十機送る」とのニュースを伝えていて、その裏、否、表では、和平の工作がなされているという、全く狂える猿どものなすことでも、もはや限界に来ているようです。

今夜も、スコットのお祭りの続きです。子供は、子供達のいる防空壕へ入つて行きました。無邪気な子供達が、あどけなくほほえみかけます。僕の心は、救いのようなものを感じつつも、一方では、何者かに対し怒りの気持をおさえることが出来ませんでした。ふと、まわりを見わたすと、壁の所にお祭りのための二本のローソクがともされ、その前に

野口晃治君は、第八回研修生として、一昨年の四月キブツ・ギネガールに行き、グルーブ解散後もギネガールに滞在、熱心なクリスチヤンである。

戦闘の疲れをいやすため、少しの間戻つてきました。はれ上つた眼、そして銃、ヘルメット等を目前に見せつけられると、どうしる事で、悲しさの確認といつてもよいでしょう。

戦闘の疲れをいやすため、少しの間戻つてきました。はれ上つた眼、そして銃、ヘルメット等を目前に見せつけられると、どうしても信じないわけにはまいりませんでした。その事は、悲しさの確認といつてもよいでしょう。

旧約聖書が開けてありました。しばらくして外へ飛び出し、満月が、からつぽになつてゐる家々を照らしているその下で、漠然としたがら空を仰いでいると、時々ジェット機が飛んで行き、こいつが戦争という名の下に相手をおびやかしているのだと思うと、たまらなく悲しい。昼間聞いたメイア首相の、「この時代時代の人々が、それに耳を傾けなかつたのか。

人間が貝になりたいと叫んでも貝になれず、人間でしか生きられない宿命を背負つてゐる以上、残された道は祈りです。祈ればかなえられるという信仰がなかつたならば、どうしてこの現実を生きて行けようか。今までの人間の歴史は沈黙していたのか。それとも、その時代時代の人々が、それに耳を傾けなかつたのか。

川崎佳代は十二月末まで、吉川佳代子は戦争の終結までネティップに滞在します。これをもつてネティップからの最後の報告と致します。六ヶ月間色々とお世話になりました。ネティップグルーブを代表して『ありがとうございました。お元気で。』

キブツ・ネティップ・ハラメッドヘイにて

後奏曲

ブラジルで日本語学校を

経営しつつ

キブツ建設を夢みる

シャローム・ハベリム！

キブツ仲間の皆さん、お元気ですか？

信頼はいかに 現在 私はアーティシルにて

キブツ建設への道を一步一歩、残念ながら

です!!

新天地にユメをかけて渡伯して二年がたちました。なんとか成功者の類に入れられそうです。つまり、キツツ建設のメドが立



今の所、スー^ツと戦争が始ま
り、スー^ツと去っていったとい
う感じで、具体的な感激はあり
ません、発表する側によるニュー
スの違い、米・ソの介入とその
力関係等、外に振り廻わされて
いるイスラエル・アラブ両国の
人々のこと等、頭に浮びます。
二度と人の血の流れない解決を
祈っています。

月、アラブとの戦争に入り約二週間続きました。今はまた、平常に戻ったものの、まだ休戦状態で、またいつ突発するかわからない状態です。日本からの便りもなく本当に不便な三週間でした。その間、テルアビブの日本大使館より大使代理が見え、いろいろと話して行かれました。今、ラマトヨハナンは綿の収穫も終り、グレープ・フルーツ、クレメンティーノのみかん類の収穫が始まっています。一昨年、

戦争もどうやら終りましたので、これからまたゆっくりといろいろな所を廻つて見るつもりで、います。それでは今回はこのへんで

当キブツに直接弾が飛んでくることはありませんでしたが、今わかっている範囲では一人のメンバーが戦死し、一人の準メンバーが負傷をして、テルアビブの病院に入院しています。今日現在、一度も帰らず、便りもなく人が数多くおり、心配な奥さんは集まっています。(当キブツのメンバーは)

私は今、ヨーロッパを約一ヶ月まわり、またイスラエルへ帰つて来ました。はや三ヶ月になろうとしています。イスラエルへ来て来月の一日で二年目、カトリには約一年半で、この七月の半ばにヨーロッパへ出て、母と一緒にヨーロッパを廻つて來ました。しかし、北欧の寒さ、そしてスイスの寒さに驚き、ま

カブリへ着いた頃、初めてにやった仕事です。今、ラマトヨハンには、ドイツのグループが入り、一段とにぎやかになつて来ました。毎年寄りと、繕なのが憂うつですが、しかし、いろいろな仕事場へ廻るのもおもしろいですね。

これからイスラエルは雨期、そして寒さ、と私にとつてはあ

うと思いつつ…… 現在、当地において学園（日本語、英語の）を経営しております。今年二月に開校しました。今、九十二名の生徒を教えています。五才から一六才の日系二世、三世およびブラジル人です。キブツ・ラマト・ハショフエットの友人から、時々便りがきます。そのたびに、またイスラエルに行きたい気持がおこります。女房もキブツには興味があるので、一度つれて行きたいと計画をたてつあります。

フジル滯在二ヶ年の体験より近況報告
致します。

だれでも、初めて当地を訪問される人なら驚嘆してしまう程の近代建設のビルの谷

間、東名高速道路より素晴らしいハイウェーなどがありますが、しかし、当地に高層ビ

ルや近代建築がとり入れられたのは、わずか十五、六年前からだそうです。海外の進

い状態です。なにせ、人口の八〇%が文盲の国です。攻守はやつこになつて文盲戦成

と踊らず——の状態です。

眞の日本人をみたけりやブラジルへ行け。
当地にいるのは明治のガソノ、そして、当地における日本人の最大の敵は——悲しいかな——日本人なのです。島国根性——県人会、日本人会、○○会……など、数えきれないほどに日本人はバラバラになっています。ちょっととした会館（村の公民館）を建てる御城でも建てたような気分で日本語新聞にデッカクだしたがる。邦字新聞といつても、地方版の地方版といった感じ、日本のことばは全て朝日、毎日のまる写し、当地の政治、社会、事件にいたるまで、これまで現地新聞のまる写し、言葉を変えるだけのものです。あとは日本からの映画紹介……外人には見せたくないようなものばかり。やれ何県の知事様、課長様が来られたとか……。つまらないとわかついても邦字新聞はこんなのがない。時々日本領事館へ行き、朝日新聞を読んでいますが、そこであらためて思うことは、アラジルに来てよかつたなアということです。

イウエーを一五〇一〇〇キロのスピード

かな——日本人なのです。島国根性——県人会、日本人会、○○会……など、数えきれないほどに日本人はバラバラになっています。ちょっととした会館（村の公民館）を建てる御城でも建てたような気分で日本語新聞にデッカクだしたがる。邦字新聞といつても、地方版の地方版といった感じ、日本のことばは全て朝日、毎日のまる写し、当地の政治、社会、事件にいたるまで、これまで現地新聞のまる写し、言葉を変えるだけのものです。あとは日本からの映画紹介……外人には見せたくないようなものばかり。やれ何県の知事様、課長様が来られたとか……。つまらないとわかついても邦字新聞はこんなのがない。時々日本領事館へ行き、朝日新聞を読んでいますが、そこであらためて思うことは、アラジルに来てよかつたなアということです。

イウエーを一五〇一〇〇キロのスピード

で走つてもポリ公はこない。いや、いらないのである。おまけに食べ物は安い。うまいコーヒーで一キログラムが二〇〇円前後、バナナの高いの一ダース五〇円、パン、イチゴ、なんでもある中で一つだけないのはリンゴ。

ゼンチン産のものを食べています。

ガソリンはリッター三五円ぐらい。生きるには何の心配もありません。キブツ建設には最適の所だと確信しています。

とりとめのない文面で恐縮ですが、第二次キブツ・グリヤグリーブの増田哲夫が、いま、ブラジルにいることをお知らせします。

TETSUO MASUDA

RUA SAO 247 apt 2

LIBERDADE CAPITAL SÃO

EST SAO PAULO BRASIL

第九回 ネティブグループ
河村輝男

今年の九月に、スウェーデンの大学都市ウップサラから帰つて来て、今、キブツ生活得たことや、スウェーデンでの友人とすばらしい生活を回想しております。そして今、私は特別養護老人ホームのナイト。キーパーとしてアルバイトをしながら、札幌の地にてキブツ活動の一端を受けついでいくつもりであります。私はまだ学生生活が二年間あり、今後どのようにして道を切り開いてよいかを考えながら、キブツで得たことを学業の上で生かしていくたいと思つていますし、また機会が与えられたなら、もう一度、研修生として、渡りしたいとも思つています。

札幌市西区稻金山一二四

社会福祉法人・神愛園内

(特別養護老人ホーム)

日本人は働きすぎ?

私は日本の共同体について何かを述べるほどの資格はないと思います。というのは、私は

は日本の九つの共同体で、ごくわずかの期間働いただけで、そして私の日本語の能力が全く限られたものであつたため、それらに関する私の知識が大変表面的だからです。しかししながら、幾つかの共同体を訪問してみて大変強い印象をいろいろと受けました。

まず第一は、心の温かさ、親切なもてなし、ことだけではなく、その地域社会に住む人々の幸福感から自然と出づるものであることを感じました。メンバー間における愛情と親密性はごく自然に見られ、そして、そのような状況にあるだけでも大変良いことです。私は短期間ではあつたとしても、それら共同体の中で生活できる機会を持ったことに大変感謝しています。

しかし、労働以外にもたくさん他の価値ある活動があり、それらはすべて「時」を必要とします。このような考え方立つ私達にとって、適正な生活水準を維持しているにもかかわらず、何故日本人の人々が一見したところ自分達のかなり長い労働時間を減らそうとしないのか理解できないのです。工業、商業、交通、農業などがますます盛んになればなる程、私達がこの小さな貧弱な地球に与えてくる圧迫が、ますます強まっていくことを考へるならば、私達はもつと真剣になつて労働の

ことを印象づけられました。すべての人々はその共同体の利益のため他利的に大変一生懸命働いており、ほとんど例外なく組織は争い事もなく順調に運営されているようです。

各共同体の労働時間は、一日六時間からそれ以上のかなり長い時間の範囲にあり、休暇の数も一週間に一回と決められているものから、ほとんど休暇なしのよう、そして休暇はただ要求する時ののみといったものまであります。西洋人は、働く日本人の態度に当惑することがあります。もちろん、私達は労働の必要性を認識していますし、有益で創造的な、あまり単調でない仕事をすることを希望しています。

しかし、労働以外にもたくさん他の価値ある活動があり、それらはすべて「時」を必要とします。このような考え方立つ私達にとって、適正な生活水準を維持しているにもかかわらず、何故日本人の人々が一見したところ自分達のかなり長い労働時間を減らそうとしないのか理解できないのです。工業、商業、交通、農業などがますます盛んになればなる程、私達がこの小さな貧弱な地球に与えてくる圧迫が、ますます強まっていくことを考へるならば、私達はもつと真剣になつて労働の

イギリス人の見た日本の共同体

スザン・コパード 訳 千葉幸広

——(continued from page 24)

真の価値を問いたい直さなければならないのではないでしょうか。

一人一人の部屋ばかりでなく、自分自身の時間を持つて個人の重要性を認識している『新しき村』は例外で、一日の労働時間も六時間（時には自分の仕事を済ませなければ、それ以下の時もある。）で、大変うまく運営されています。また、『前森山集団農場』の流動的な能率性も大変印象的でした。そこでは、人々は彼らの大変人間的な温かみとか、生きる楽しみとかを失うことなく、牛小屋の糞取り、食後の洗いなど、あまり価値のない時間に浪費するにすぎないたくさんの労力を最小限に押えるように努力しています。

各共同体固有の特色

それぞれの共同体にはその内容にいろいろな違いがあります。運営面において、何人かのメンバーが一定期間、委員会の任務につき、管理にあたったり、あるいは、全体の討議のみによって遂行されている共同体もあります。その構成においては、たくさんの未婚のメンバーを持つ共同体もあれば、全くいくつかの家族から成っている共同体もあります。そし

て、当然各々の共同体は独自の雰囲気を持っていますし、共同化の度合いも違います。『大和山』では、人々が会う度ごとにお互い、真心を持って深々と頭を下げて挨拶をかわすのを見て、大変心が清められました。彼らの神道の歌の不思議な美しさ、そして見事に花をつけたサボテンを、私は決して忘ることはないでしょう。『北試』では、お金は、要求があり正当な理由があるものを与えられるだけで不要なものとされています。『東山産業』では、研修生でさえ日給が与えられます。

一方『金峰』は延山の近くの高い山上にある。依然として闘争を続いている共同体です。そこで、S C I のボランティアの人達がその維持に貢献しています。生活面において、『北試』では六才以上の子供達は共に寝て、すべての人々が食事時に御飯を一緒に食べます。一方、大部分の他の共同体では家族単位で食事して睡眠をとります。そして、風呂や洗濯機等が備わった個人の家を持っている共同体もあります。個人的に私は『北試』の風呂の時間が大好きです。幼児と母親が風呂を共にして、少女達の歌声を聞くことは大変楽しいものでした。

共同体には、いろいろと人々が集まる事がで、一方、大部分の他の共同体では家族単位で食事して睡眠をとります。そして、風呂や洗濯機等が備わった個人の家を持っている共同体もあります。個人的に私は『北試』の風呂の時間が大好きです。幼児と母親が風呂を共にして、少女達の歌声を聞くことは大変楽しいものでした。

自然な生活様式とは？

このことはより良き生活のために、人々が共同で生活し、仕事することのできるのは何もスラエルに限ったことではないことを証明しています。世界の他の地域の同胞が環境を保護しようと努力していることを、日本の共同体の人々が観察し、実行に移して、日本にとって価値ある必要な例を創り出すことができないはずがありません。

もし、人々が『新しき生活』に自己を委ねることばかりでなく、高度の刺激的な価値ある冒險に向けて、自分が歩み出していくことに気付くでしょう。

この文章においては、生態学や、自然農法についてあまり述べることはできませんが、興味のある方のために、幾つかの連絡機関を挙げておきます。

(1) ECOLOGY - ALL ASPECTS:

Friend of the Earth,

30 E 42 Street, New York,
N. Y. 10017 U. S. A.

あります。地域の学校の運動会への参加、定期的な討論会、月毎のパーティー、卓球、夕方集まる飲屋、日曜の午後のゲーム、お茶会等々。しかしながら、私はほとんどの共同体において、文化的活動といったようなものを見ませんでした。このことは私が見逃したことであると思います。

皆さんも御承知のように、多くの共同体は一般地域社会に役立つすばらしい計画を遂行しています。老人や身障者のための家の設立、高校の建設、共同農業の援助組織の設立など、二、三述べただけでもこれだけのことを行っています。そしてまた、もちろん外部の者が、ある期間、彼らと日常生活を共にし、そこに生活することによって共同生活について学ぶことが可能な共同体も少なくあります。

然資源を消費し尽すことをやめなければ、世界が直面するであろう生態学的破滅について、いずこもいささかの関心を持つていてないことに失望を感じています。それはまるで、「もし私がこの問題を無視しさえすれば、そんな心配はなくなってしまう。」と、あらゆる所で人々が述べていることと変わりありません。私には日本の共同体は生態学者が私達に警告している危険に対処する答を追求し、より健全で、より人間的な生活様式を導き出す位置にあるように思います。

しかしながら、現在、多数の人々は依然として工場が製造するたくさんの製品（しばしば、大変むだな包装がなされている。）を消費しています。彼らは、私の知る限りにおいては、自然農法を探求することなく、化学薬品を用いて農業を行っています。例えば、雑草が作物の成長を助長し、害虫から守り、土壤に価値ある栄養を与えることを知っていますか？あるいは、家畜と家禽が共に生育することは知つていましたか？にわとりは地中にいるすべての地虫を食べ尽し、彼らの糞は栄養を含み、家畜にとって大変有益です。人々は溝に洗浄を流し込んでおり、私達は非自然的な、化学的に加工された食物を食べね

(2) ORGANIC/NATURAL FARMING AND GARDENING:

The Soil Association,

Walnut Tree Manor, Haughley,

Stowmarket, Suffolk, England.

Henry Doubleday Research Association,

Bocking, Braintree, Essex, England

(Membership: about £ 3)

(Suitable introductory literature:

75 p plus 90 p airmail or 50 p

seamail)

愛媛県伊予市大平一⁶〇〇一

福岡さん

(電) ○八九九八一¹—一八六七一

イギリスの共同体

すでに基礎が確立し、比較的大きな日本の共同体と同様な、大変著名でやや小さい共同体が幾つかイギリスにもあります。そこにはある程度の老人がおり、かなり一定の線に沿って管理運営されています。しかし、イギリスの共同体の大半は、ほとんど老人はおらず、世代間の差のない家族の延長のよう

な、若者の小さな集まりです。彼らの多くは土地もなく、財産を所有する余裕もありません。彼らはまた、一般に組織化される事も、訓練されることもなくて、固定化されること少なく、「生きる」とに対して、より実験的な方法を持っています。

(注)

Richard Fairfield 「Communes Europe」

Foundation Box 36604 L. A., Ca.
90036, U. S. A.

(「Communes Japan」

彼らは神秘主義（黙考、ヨガ、麻薬、自然野菜、マッサージ等を通して意識の水準を高める）こと、心理学（例えば、集団テレパシーや集団の人間関係）、詩を書くこと、アングロ的ポップミュージック、ダンス、政治、教育、エコロジー等に興味をいだいています。ごくわずかの人々は町の子供達の遊び場の管理運営、困っている人々への援助、無料の食事、衣服、書店の運営、絵画、工芸、自分達の食物の自然農法的生産といったよくな活動に参加しています。

共同体の多くのメンバーは、依然と共同体外で普通の仕事を持っています。より幸運な人々はどうにかかにが、いわゆる「ねずみの競争」を振り切って生計をたて得る労働をして生活しています。彼らは他の国々の共同体と共に、「もう一つの社会」として知られているものの一部を形成しています。「もう一つの社会」とは、急進的な考え方を持った

集団の国際的なつながりで、より健全で幸福な社会をもたらそうと努力している個人の共同体です。

